

<活動報告>

平成18年度の映像関連講座関連事業の活動報告

角 和博

(佐賀大学文化教育学部・映像関連講座運営担当)

1. はじめに

佐賀大学では、平成17年5月に締結された佐賀県と佐賀大学の「アジアのハリウッド構想」に伴う協力協定に基づいて映像関連講座を実施してきた。また昨年6月に発足した「ふるさと映像塾」は、佐賀県が今年度に主催した第26回全国「豊かな海づくり」大会や佐賀県くらし環境本部企画・経営グループの若者の就労支援のためのビデオ製作を行った。これらの佐賀県と佐賀大学の平成18年度の映像関連講座関連事業活動を報告する。

2. 佐賀県のハリウッド構想

佐賀県は、平成16年に「アジアのハリウッド構想」を打ち出した。この構想とは、アメリカのハリウッドのように新しい土地に新しい企画による産業を打ち出して、成功させようとする構想で、佐賀をアジアにおけるデジタル産業の拠点の一つにしようするものである。名称からだけからのイメージとの違いを解消するためにアジアのハリウッド構想のWebページでは、「“アジアのハリウッド構想”とは、100年以上前に新しい成長産業であった映画産業が当時のアメリカの大都市ではなく、ハリウッドという地方に集積・定着したことをモデルにして、21世紀の新しい成長産業であるデジタルコンテンツ産業を佐賀県に集積・定着させるために必要な条件やその条件整備のために具体的に何を実施すべきなのかを見極め、その条件整備を全国に先駆けて取り組むことである」という解説がなされている。

この実現の第一歩としては、まずデジタル産業を支える人間を育てる必要がある。平成17年5月に佐賀大学は、佐賀県と「アジアのハリウッド構想」の実現に向けて協力協定を締結した。その構想案の内容には次のような項目が含まれている。

- ①佐賀大学での映像関連講座の開設
- ②佐賀大学に映画・映像学科の設置
- ③専門職大学院の設置(リカレント教育の充実)
- ④クリエイター・コミュニティーの構築

平成17年度と平成19年度までは、第1期の佐賀大学での映像関連講座の開設時期といえるであろう。この構想案の実現に向けて、映像関連講座の次の発展段階を検討中である。

3. 映像関連講座

昨年度は教養教育科目の「芸術と表現」の中で「映像形態論～映画の文法～」、「映像芸術論～黒澤明・音と映像～」の2科目であったが、今年度からは、「映画制作論」を新しく加えて3科目を実施した。この新科目はeラーニングコンテンツと対面式授業を組み合わせたブレンディッド授業であった。

3.1. 「映像形態論～映画の文法～」

まず前期の「映像形態論」は、昨年度とほぼ同じ内容であった。使用したテキストは、「一人でもできる映画の撮り方」(西村雄一郎著、洋泉社)である。授業はテキストの章立ての順番に西村雄一郎氏の原作に基づいた「アメリカの夜」(1991、フジテレビ)のVTRの視聴を交えて、映画製作の基本技術をわかりやすく解説する内容であった。授業の中でビデオカメラや照明機器などの使い方を実地に演示することも多かった。また講座の中では特別ゲストとして環境問題評論家の船瀬俊介氏に講演もあり、西村氏との交友から環境問題まで幅広い内容で学生は興味深く聞き入っていた。



写真1 「映像形態論」の授業風景



写真2 特別ゲスト船瀬俊介氏の講演

3.2. 「映画制作論」

「映画制作論」では、平成17年度の「映像形態論～映画の文法～」を収録したVTRを編集して動画コンテンツとし、また授業の内容や板書をパワーポイントで表示して、この両者を組み合わせたストリーミング型のeラーニングコンテンツを教材に用いた。まずこのコンテンツを学生に視聴させ、いくつかの小テストに答えさせるまでをeラーニングで行い、翌週は対面式授業を行う。このとき前回の対面式授業の最後に予習用に与えられていたテーマをNet授業で理解しておく必要がある。Net授業は予習用、対面式授業はディスカッション中心というように、より授業内容を深めるように授業が構成されていた。この授業によってNet授業の予習的な使い方や学習管理システム(佐賀大学では現在 moodle を用いている)による教員と学生の双方向型の意見交換の授業における教育効果が実証された。

3.3. 「映画芸術論～黒澤明・音と映像～」

この授業では西村雄一郎氏の著作「黒澤明 音と映像」(立風書房)と「黒澤明と早坂文雄 風のように侍は」を参考資料に用いながら、黒澤明の映画を年代順に解説がなされた。

授業の構成は、下記の黒澤明の映画作品と音楽担当者との対比をもとに一見映像が主体的な

イメージをもつ映画が、実は音(音楽)と映像の相互作用によって成立していることを黒澤映画の音楽担当者と映画の作風を対比することで明確に示している。

<p>[第1期]</p> <p>1) 1943 姿三四郎 鈴木静一</p> <p>2) 1944 一番美しく 鈴木静一</p> <p>3) 1945 続姿三四郎 鈴木静一</p> <p>4) 1945 虎の尾を踏む男達 服部正</p> <p>5) 1945 わが青春に悔いなし 服部正</p> <p>6) 1947 素晴らしき日曜日 服部正</p> <p>[第2期]</p> <p>7) 1948 酔いどれ天使 早坂文雄</p> <p>8) 1945 静かなる決闘 伊福部昭</p> <p>9) 1949 野良犬 早坂文雄</p> <p>10) 1950 醜聞 早坂文雄</p> <p>11) 1950 羅生門 早坂文雄</p> <p>12) 1951 白痴 早坂文雄</p> <p>13) 1952 生きる 早坂文雄</p> <p>14) 1954 七人の侍 早坂文雄</p> <p>15) 1955 生きものの記録 早坂文雄</p>	<p>[第3期]</p> <p>16) 1957 蜘蛛巣城 佐藤 勝</p> <p>12) 1957 どん底 佐藤 勝</p> <p>15) 1958 隠し砦の三悪人 佐藤 勝</p> <p>16) 1960 悪い奴ほどよく眠る 佐藤 勝</p> <p>17) 1961 用心棒 佐藤 勝</p> <p>18) 1962 椿三十郎 佐藤 勝</p> <p>19) 1963 天国と地獄 佐藤 勝</p> <p>20) 1965 赤ひげ 佐藤 勝</p> <p>[第4期]</p> <p>21) 1970 どですかでん 武満 徹</p> <p>22) 1975 デルス・ウザーラ I.シュワルツ</p> <p>23) 1980 影武者 池辺晋一郎</p> <p>24) 1985 乱 武満 徹</p> <p>25) 1990 夢 池辺晋一郎</p> <p>26) 1991 八月の狂詩曲 池辺晋一郎</p> <p>27) 1993 まあだだよ 池辺晋一郎</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3.4 古田求氏と西村雄一郎氏の対談

平成18年6月1日(木)(10:20~11:50)に佐賀大学教養教育運営機構211番教室にて佐賀大学映像関連講座特別講演会「古田求氏と西村雄一郎氏の対談」を実施した。古田求氏は、佐賀県出身の脚本家で「赤ひげ」「影武者」等の脚本で知られる井手雅人に師事し、助監督を10年経験した後、78年「ダイナマイトどんどん」(岡本喜八監督)で脚本家デビューした。その後は野村芳太郎監督作品の「疑惑」(82)で毎日映画コンクールの脚本賞を受賞、深作欣二監督との共同執筆作品「忠臣蔵外伝 四谷怪談」(94)では日本アカデミー賞最優秀脚本賞を受賞された。また数々のテレビドラマの脚本も手掛け、TX「壬生義士伝～新撰組でいちばん強かった男」(02)でギャラクシー賞選奨、ATP特別賞、橋田壽賀子賞を受賞している。テレビおよび映画の主な脚本作品は、次のようである。

○テレビの脚本作品:西遊記(1978)、西遊記II(1979)、黄土の嵐(1980)、仕掛人 藤枝梅安 梅安迷い箸(1991)、仕掛人 藤枝梅安 さみだれ梅安(1991)、雲霧仁左衛門(1995~1996)、剣客商売(第1期)(1998)、次郎長三国志(1999)、剣客商売(第2期)(1999~2000)、剣客商売(第3期)(2001)、壬生義士伝 新撰組でいちばん強かった男(2002)、御宿かわせみ(2003)、忠臣蔵(2004)、剣客商売(第5期)(2004)、華岡青洲の妻(2005)、影狩り(1991)、運命峠(1993)、阿部一族(1995)、清水次郎長物語(1995)、忠臣蔵～決断の時～(2003) ○映画の脚本作品:ダイナマイトどんどん(1978)、胸さわぎの放課後(1982)、迷走地図(1983)、逃がれの街(1983)、ねずみ小僧怪盗伝(1984)、もうひとつの少年期(1984)、薄化粧(1985)、危険な女たち(1985)、十手舞(1986)、パッセンジャー 過ぎ去りし日々(1987)、四万十川(1991)、復活の朝(1992)、忠臣蔵外伝 四谷怪談(1994)、バルトの楽園(がくえん)(2006)。



写真3 撫尾学部長の挨拶



写真4 古田求氏と西村雄一郎氏の対談

古田氏と西村氏の両氏は、子どものころから自宅近くの松原神社の北に位置するセントラル会館で映画を鑑賞していたことから、話題は昭和33年封切りの「張り込み」(松本清張原作 野村芳太郎監督)のロケ隊が昭和32年9月から松川屋に1ヶ月半宿泊した思い出話から始まった。ともに映画にかかわる職業の二人の話題からは、映画が文化であることが伝わってくる。この対談の時期は2006年の新作「バルトの楽園」の封切り直前であり、対談の後半では製作中の出来事も話題となった。なお撫尾知信文化教育学部長は、古田求氏の附属中学校時代の同級生である。

3.5 ジェイ・ルービン氏と西村雄一郎氏の対談

平成18年12月7日(木)(10:20～11:50)に教養教育運営機構2号館2階221番教室にて、映像関連講座の特別講座としてジェイ・ルービン氏を迎え、「日本文学と映画」と題して西村雄一郎先生の対談を実施した。ジェイ・ルービン氏は1993年から2006年の間、ハーバード大学の教授を務め、この間に2回ほど京都にある国際日本研究センター客員教授も経験された。現在はハーバード大学の日本文学に関する研究教授である。いままでに夏目漱石、芥川龍之介等の翻訳に加えて現在もっともノーベル賞に近いとされている村上春樹の小説の大半を英訳している。

ジェイ・ルービン氏は、西村先生の古くからの親友のひとりである。出会いのころの思い出話から対談は、黒澤明監督の映画作品「羅生門」の原作である芥川龍之介の小説「藪の中」と「羅生門」へと移っていった。小説を映画化することによるさまざまな違いが話題となった。後半は村上春樹の作品について、なぜ村上春樹がおもしろいのか、その理由を聞くことができた。主要な作品の大半を占める氏の英訳は、村上春樹がフランツ・カフカ賞やフランク・オコナー国際短編賞を受賞するきっかけをつくったといえるであろう。

主な翻訳と著書には、「三四郎」(夏目漱石)シアトル:ワシントン大学出版社(1977年)、「公衆道徳における有害:作家および明治国家」シアトル:ワシントン大学出版社(1984年)、「鉦夫」(夏目漱石)、スタンフォード大学出版社(1988年)、『日本語の意味が分かること』講談社インターナショナル(2002年)、「象の消滅」(村上春樹)アルフレッド・A.クノッフ社(1993年)、「ねじまき鳥クロニクル」(村上春樹)ハーヴェル出版社(1998年) 国際IMPACダブリン文学賞、フレンドシップ委員会の日本文学翻訳賞(1999年)、日本文学の翻訳(2003年野間賞)、「ノルウェーの森」(村上春樹)ハーヴェル出版(2000年)、『ハルキ・ムラカミと言葉の音楽』畔柳和代訳 新潮社(2006年)、「地震

のあとで」(村上春樹)、ハーヴェル出版社(2002年)、「芥川龍之介による羅生門と7つの小説」ペ
ンギン デラックス古典(2006年)、「めくらやなぎと、眠る女」(村上春樹)ハーヴェル出版社(2006
年) フランクのオコーナーの国際的な短編小説賞受賞(2006年)、「アフターダーク」(村上春樹)
ハーヴェル出版(2007年)などがある。



写真5 ジェイ・ルービン氏の紹介



写真6 ジェイ・ルービン氏と西村雄一郎氏の対談

4. ふるさと映像塾の活動

平成18年度の「ふるさと映像塾」の活動は、第26回全国豊かな海づくり大会のオープニングの
ビデオ映像製作、サガン鳥栖ホームでの全24回の試合での応援メッセージをWeb動画にした。

4.1. 全国豊かな海づくり大会オープニングのビデオ製作

2005年の6月の「ふるさと映像塾」発足から程なくして依頼のあった映像製作は、次年度の開
催される予定の第26回全国豊かな海づくり大会オープニングセレモニーのビデオ製作であった。
このため8月21日のイベントには、ビデオカメラを担いで雨の中を撮影した。ただこのことはま
だ何を撮るのか明確ではなかった。しかし四季折々の有明海の様子を撮影するために10月や11
月までは、スケジュールを決めて東与賀のしちめん草の海岸や海苔養殖の様子などの記録撮影
を行った。

何度かの話し合いの後に台本作成に取り掛かることになった。まず台本作りの基本を学ぶため
平成18年1月から始まった佐賀大学公開講座「イメージを映像にするビデオ制作セミナー」にふ
るさと映像塾のメンバーの何人かが参加することにした。そこでこの講座全体を佐賀県のアジアの
ハリウッド構想の協力協定のもとに連携することとした。講師2年目の広橋氏は、サガテレビのディ
レクターで高柳賞やギャラクシー賞等をカメラマンの花森氏とともに受賞されている。講座はいくつ
かの受賞作品のドキュメンタリー番組を視聴しながら広橋講師の質疑応答で進んでいった。後半
に入るといよいよ台本づくりが始まった。ふるさと映像塾の受講生は台本を書いて討論しながら何
度も修正を繰り返した。一方で映像関連講座の佐賀大学の学生には、定期試験で「佐賀県は、
有明海と玄界灘の二つの海には含まれている。その2つの海をテーマに、10分間の映画を製作し
たい。構成(簡単なストーリー)を考えよ。」という課題が与えられ、134名の学生の解答が集まった。

これをワープロで打ち直して脚本家にも見てもらい、面白い構成を1つ探し出すことができた。ここで佐賀県の山から海への水の流れに沿ってさまざまな風景や祭りなどを織り込んだ台本に玄界灘から来た男子学生と有明海から来た女子学生との出会いからふたりで2つの海を紹介するストーリーが重ね合わさった。この後も台本づくりは5月ごろまで続いた。この間も3月には伊万里市の山林で植林を撮影取材した。



写真7 呼子の大綱引き会場での撮影



写真8 出演者とスタッフの集合写真



写真9 芦刈町の夏祭り



写真10 芦刈沖でのアンコウ網漁

ロケーションが本格的始まったのは7月3日からである。出演する2人の学生も決まり呼子の大綱引きを撮影した。7月14日は芦刈町のむつごろう公園の夏祭りと沖ノ島参りの中でロケーションを行った。8月9日は外津(ほかわず)港から出航してイカ釣り漁を撮影し、8月10日には虹の松原、七ツ釜でロケーションを行った。

この後9月には編集を進めながら不足している七浦の海岸でムツかけ漁、芦刈の沖合でアンコウ網漁の撮影取材を行った。写真10にもあるようにこの日の撮影映像からは、畠田氏の漁師としての誠実さが伝わってくる。2回のリハーサルを経て10月23日(土)の大会当日の舞台挨拶にでた出演者と監督は会場から大きな拍手を受けた。

タイトルは「天女の舞い降りた海」でキャストは、むつみ:野瀬 智未、玄太:山崎 耕成、玄海の船長:加納 隆芳、玄海の奥さん:加納 隆子、有明海の船長:畠田 米次、酔っ払いの漁師:川上 勝、スタッフは、製作:角 和博、脚本:西村 雄一郎・影山雅代、撮影:川上 勝・横井 晴貴、撮

影助手:河道 威、音楽:弓削田健介、水中写撮影:角縁直子、衣装:田中亮子、演出補佐:田中正和、監督:西村雄一郎であった。またムツかけ漁の広川伝一氏、水中撮影の高島篤志氏(唐津アクアラングサービス)、値賀崎旅館様、芦刈漁協ムツゴロウ遊漁船クラブ様には多大なご協力をいただいた。

4.2. 佐賀若者就労支援事業のビデオ製作

「豊かな海づくり」の仕事が終わるとすぐに、佐賀県くらし環境本部 企画・経営グループから佐賀若者就労支援事業のビデオ製作の依頼があった。打ち合わせ後には、ふるさと映像塾のメンバーが集まって議論した末、まずは NPO サポートフェイスの活動を担当者に会って聞くことにした。その後シナリオのドラフトができると何度も集まっては、構成や言葉の使い方を検討し、俳優の方々にも何度もリハーサルをお願いした。



写真 11 NPO サポートフェイスでの取材



写真 12 白山商店街でのロケーション

タイトルは、「晴れ間のように さが若者サポートステーションとの出会い」でキャストは、高橋和也:穂村和彦、母親:はるみ、木崎真由子:岡田春子、職員:古賀ヤスロー、小林:松隈祐樹、スタッフは、総監修:西村雄一郎、製作:角和博、脚本:樋口さや、影山雅代、撮影:川上勝、音声:池田章展、進行:田中正和、記録:田中亮子、スチール:角縁直子、車輜:山崎耕成、編集:横井晴貴、音楽:弓削田健介、監督補:本村健、監督:樋口さやであった。また佐賀県立図書館様、旅庵松川屋様、有岡大介様、森本雅樹様に多大なご協力をいただいた。

4.3 鳥栖スタジアムにおけるサガン鳥栖 100 人の応援メッセージ

表1に示すようにサガン鳥栖のホームである鳥栖スタジアムで全 24 回にわたって 100 人の応援メッセージを撮影・編集し Web 動画を配信し続けた。昨年から続いているこの取材から Web 動画配信までを 3 日間で行うようにしている。このため取材から編集、編集チェックのすばやく行う必要がある。これを決められた日時で 24 回行ったことは、ボランティア活動として高く評価できるであろう。また毎回応援に訪れるサポーターや一般観客の方々からたくさんの励ましの言葉をいただいた。

表1 鳥栖スタジアムにおけるサガン
鳥栖 100人の応援メッセージ

日付	対戦相手	撮影 (人)	編集 (人)
3/4	コンサドーレ札幌	7	3
3/18	ヴァンフォーレ神戸	6	5
3/26	ザスパ草津	4	5
4/8	東京ヴェルディ	6	3
4/18	愛媛FC	4	4
4/29	モンテディオ山形	4	3
5/14	柏レイソル	4	3
5/21	横浜FC	6	4
5/28	ベガルタ仙台	5	3
6/11	湘南ベルマーレ	4	2
6/17	水戸ホーリーホック	5	2
7/1	徳島ヴォルティス	8	2
7/16	コンサドーレ札幌	7	2
7/26	モンテディオ山形	3	2
8/6	ザスパ草津	7	3
8/23	ヴィッセル神戸	5	4
9/2	東京ヴェルディ	7	2
9/13	愛媛FC	5	3
9/23	ベガルタ仙台	5	3
10/1	柏レイソル (佐賀総合グラウンド)	8	3
10/18	水戸ホーリーホック (佐賀総合グラウンド)	5	3
10/29	徳島ヴォルティス	6	3
11/12	湘南ベルマーレ	5	3
11/26	横浜FC	6	3



写真13 子どもたちの応援メッセージ撮影



写真14 入り口付近での声かけ

5. おわりに

映像関連講座は佐賀大学の中で定着しつつある。また「ふるさと映像塾」も2年目を迎え活動が本格化してきたようである。学生と一般市民がさまざまな課題にぶつかりながら、それを解決して目標に近づいていく日々の活動は、佐賀大学と地域との結びつきを考えていく上で貴重な学びとなるであろう。これからもこの活動が発展することを祈っている。

【文献】

佐賀県、「アジアのハリウッド構想」、<http://www.saga-ahp.jp/>

角 和博、「平成17年度の映像関連講座とその関連事業の活動報告」、大学教育年報第2号、
佐賀大学高等教育開発センター、平成18年3月 110-16